

長崎市新東工場整備運営事業受注者選定審査会（以下「審査会」という。）が令和3年11月10日に公告した「新東工場整備運営事業」の総合評価一般競争入札に係る事業者提案について、提案書及び入札価格について定量化審査により総合的に審査を行った。

長崎市は、審査会による審査の結果を踏まえ、落札者を決定したため、審査会における評価の結果を審査講評として公表する。

令和4年 7月 1日

長崎市長 田上 富久



---

新 東 工 場 整 備 運 營 事 業

審 査 講 評

---

令 和 4 年 7 月 1 日

長 崎 市 新 東 工 場 整 備 運 營 事 業 受 注 者 選 定 審 査 会

長崎市（以下、「市」という。）は、新東工場整備運営事業（以下、「本事業」という。）の総合評価一般競争入札による事業者の選定において、公平性及び透明性を確保し、専門的知見に基づく評価を行うために、学識経験者を含む6名の委員により構成される「長崎市新東工場整備運営事業受注者選定審査会」（以下、「審査会」という。）を設置しました。

審査会は、令和3年7月26日に第1回を開催して以降、計6回にわたって、入札説明書、落札者決定基準等について審議を重ねるとともに、入札参加者の提案内容について審査を行いました。

このたび、厳正かつ公正な審査の結果、落札候補者を選定しましたので、これまでの審査の過程と結果を、ここに審査講評として報告します。

令和4年 7月 1日

長崎市新東工場整備運営事業受注者選定審査会

会長	西久保 裕彦
職務代理者	鳥居 修一
委員	荒井 喜久雄
委員	小野 純男 (令和4年3月31日まで)
委員	山下 雄二 (令和4年4月1日から)
委員	後藤 明
委員	高尾 忠志

# 新東工場整備運営事業 審査講評

## 目 次

---

1. 事業概要	1
(1) 事業名称	1
(2) 対象となる公共施設等の種類	1
(3) 事業期間	1
(4) 事業方式	1
(5) 事業範囲	1
2. 審査方法等	2
(1) 入札の方法	2
(2) 落札決定までの経過	2
(3) 審査会の設置	3
(4) 審査会の開催経過	3
(5) 落札者決定の手順	4
(6) 審査手順	5
3. 落札候補者の選定結果	8
(1) 参加資格確認	8
(2) 提案書の基礎審査	8
(3) 非価格要素の定量化審査及び提案書に関するヒアリング	8
(4) 総合評価値の算出	12
(5) 落札候補者の選定	12
4. 総評	13

---

## 1. 事業概要

### (1) 事業名称

長崎市新東工場整備運営事業

### (2) 対象となる公共施設等の種類

施設の種類	一般廃棄物処理施設（エネルギー回収型廃棄物処理施設）
建設地	長崎市戸石町 88 番地 10 を含む都市計画区域内
施設概要	処理対象物を受け入れ、焼却処理を行い、処理過程で発生する熱エネルギーの有効活用を図る施設。
施設規模等	210t/日（105t/24h×2 炉）
処理方式	全連続燃焼式ストーカ方式
供用開始	令和 8 年 4 月 1 日（予定）

### (3) 事業期間

- ・設計・施工期間：事業契約締結日の翌日（令和 4 年 9 月予定）から令和 8 年 3 月 31 日までの約 42 ヶ月間（試運転期間を含む）
- ・運営期間：令和 8 年 4 月 1 日から令和 28 年 3 月 31 日までの 20 年間

### (4) 事業方式

本事業は、本施設の設計・施工及び運営に係る業務を事業者が一括して行う D B O（Design：設計、Build：施工、Operate：運営）方式により実施する。

市は本施設の設計・施工及び運営に係る資金を調達し、本施設を所有する。

民間事業者は、市の所有となる本施設の設計・施工業務、運営業務に係る本事業を一括して行うものとする。

### (5) 事業範囲

事業者が行う本事業の業務は次のとおりである。

- ア 事前業務
- イ 設計・施工業務
- ウ 運営業務

## 2. 審査方法等

### (1) 入札の方法

入札の方法は、地方自治法施行令（昭和 22 年政令第 16 号）第 167 条の 10 の 2 に規定する、総合評価一般競争入札方式により実施した。

### (2) 落札決定までの経過

落札者決定の経過は表 1 のとおりである。

表 1 落札者決定の経過

日 程	内 容
令和 3 年 11 月 10 日 (水)	入札公告、入札説明書等の公表
令和 3 年 11 月 10 日 (水) ～ 11 月 24 日 (水)	入札説明書等に関する質問の受付 (第 1 回)
令和 3 年 11 月 21 日 (日)	現地見学会
令和 3 年 12 月 8 日 (水)	入札説明書等に関する質問への回答 (第 1 回) の公表
令和 3 年 12 月 9 日 (木) ～ 12 月 17 日 (金)	参加資格審査申請書及び参加資格確認書類等の受付
令和 3 年 12 月 24 日 (金)	参加資格審査結果の通知
令和 4 年 1 月 11 日 (火) ～ 1 月 14 日 (金)	対面的対話確認事項及び入札説明書等に関する質問受付 (第 2 回) の受付
令和 4 年 1 月 28 日 (金)	対面的対話の実施 (第 2 回質問への回答を兼ねる)
令和 4 年 2 月 18 日 (金)	対面的対話結果及び入札説明書等に関する質問回答 (第 2 回) の公表
令和 4 年 3 月 25 日 (金)	入札提出書類の提出期限
令和 4 年 4 月 28 日 (木)	提案書の基礎審査結果の通知
令和 4 年 6 月 3 日 (金)	非価格要素審査の実施 (提案書に関するヒアリングの実施)
令和 4 年 6 月 3 日 (金)	開札、入札価格審査の実施
令和 4 年 6 月 6 日 (月)	落札者の決定
令和 4 年 6 月 7 日 (火)	落札者の公表

### (3) 審査会の設置

審査は、公平性及び透明性を確保し専門的知見に基づく評価を行うことを目的に、学識経験者を含む6名の委員により構成される「長崎市新東工場整備運営事業受注者選定審査会（以下「審査会」という。）」において行った。

[委員の構成]

No.	委員名	役職
1	荒井 喜久雄	公益社団法人全国都市清掃会議 技術指導部長
2	小野 純男	株式会社 福岡クリーンエナジー 調査役 (令和4年3月31日まで)
	山下 雄二	株式会社 福岡クリーンエナジー 技術部 技術課長(技術専門員) (令和4年4月1日から)
3	後藤 明	株式会社 日本政策投資銀行九州支店 企画調査課長
4	高尾 忠志	九州大学持続可能な社会のための決断科学センター 特任准教授
5	鳥居 修一	国立大学法人熊本大学大学院先端科学研究部 教授
6	西久保 裕彦	国立大学法人長崎大学環境科学部 教授

### (4) 審査会の開催経過

本事業における審査会の開催経過は、表2のとおりである。

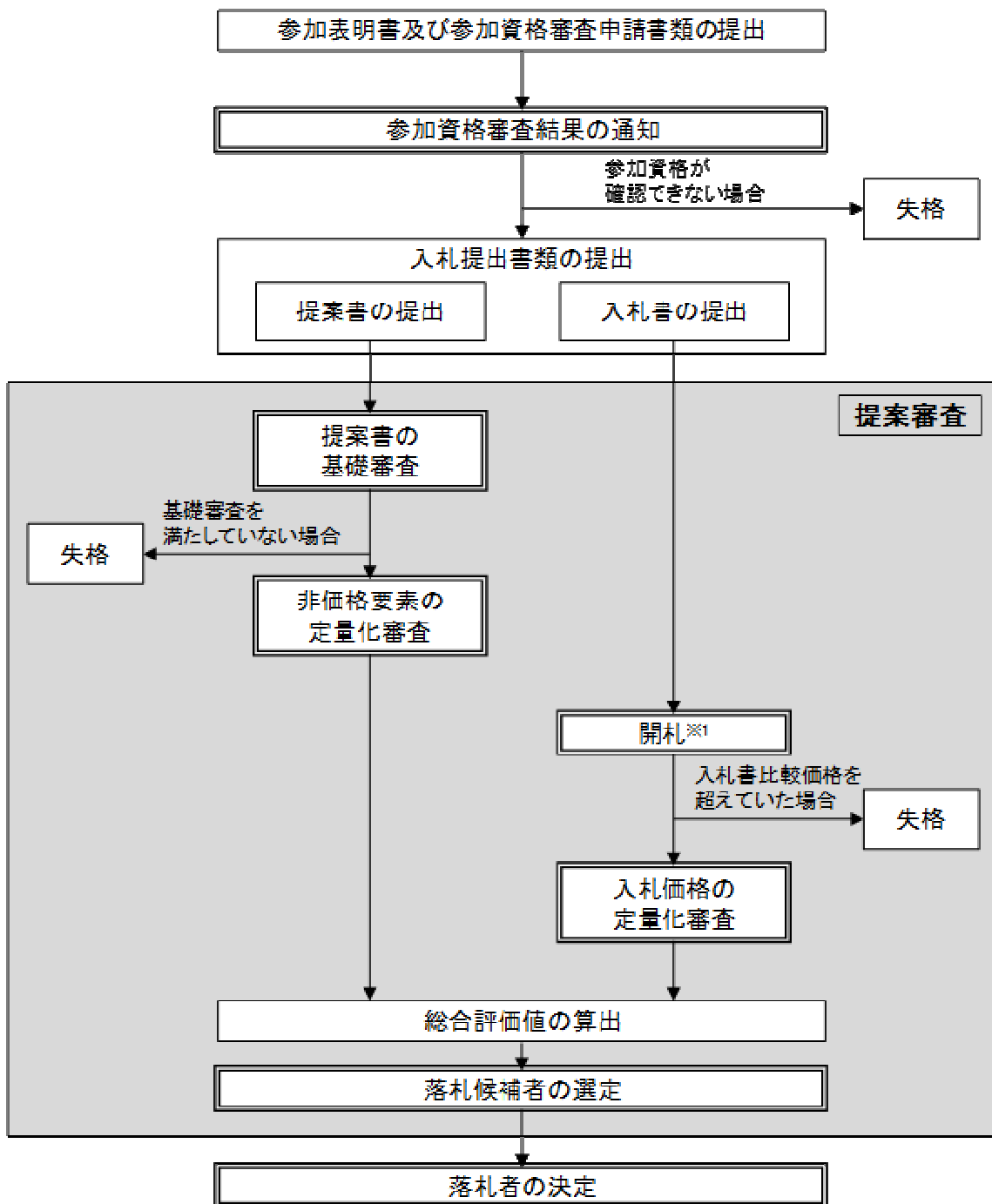
表2 審査会の開催経過

日 付	内 容
令和3年7月26日(月)	第1回審査会 (事業概要、審査会の検討内容及びスケジュールの確認、 実施方針(案)、要求水準書(案)に関する審議)
令和3年8月26日(木)	第2回審査会 (入札説明書(案)、要求水準書(案)、落札者決定基準(案) に関する審議)
令和3年10月18日(月)	第3回審査会 (入札説明書等一式に関する審議)
令和4年1月28日(金)	第4回審査会 (対面的対話)
令和4年5月9日(月)	第5回審査会 (基礎審査結果の確認、ヒアリング事項の確認)
令和4年6月3日(金)	第6回審査会 (ヒアリング、非価格要素の定量化審査、入札価格の定量化審 査、落札候補者の選定、審査講評の審議)



## (5) 落札者決定の手順

落札者決定の手順については、図1のとおりである。



※1 提案書の基礎審査において失格となった者の提出した入札書は、開札しない。

※2 選定委員会の事務は図中網掛け部分

図1 落札者決定の手順

## (6) 審査手順

### ア 参加資格審査

参加資格審査は、参加資格審査申請書及び参加資格確認書類等により、入札説明書に記載の入札参加者の備えるべき参加資格要件を満たしていることを事務局において確認した。

### イ 提案審査

#### (ア) 提案書の基礎審査

審査会は、提案書（技術提案書、施設計画図書、添付資料）に記載された内容が、落札者決定基準に示す基礎審査項目を満たしていることを確認した。確認内容は、表 3 のとおりである。

表 3 確認内容

確認項目	内 容
入札提出書類の確認	・ 提出された提案書がすべて揃っていること。
提案書の基礎審査	・ 提案書の内容が要求水準書に示す要求水準を満たしていること。 ・ 入札説明書及び様式集に示す提案書の作成に関する条件について違反のないこと。 ・ 提案書全体について、同一事項に対する 2 通り以上の提案又は提案事項間のくい違い、矛盾等がないこと。

#### (イ) 非価格要素の定量化審査

##### a. 審査項目と配点

審査会は、表 4 に示す審査項目及び配点を設定し、提案書に記載された内容について、評価を行った。

なお、非価格要素に関する事項の配点は、600 点（全体 1,000 点）とした。

##### b. 非価格要素の得点化方法

提案を求めている審査項目においては、表 5 に示す 5 段階評価により評価、点数化を行い、各審査項目の得点を合計して、非価格評価点を算定した。

また、審査会では、提案書に関するヒアリングを実施し、提案内容の確認等を行ったうえで評価した。

表 4 審査項目及び配点

審査事項	大項目	中項目	小項目	配点	
非価格要素の定量化審査				600 点	
	長期安定稼働 (基幹的施設整備を実施し、40年以上の稼働を目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・40年以上の施設の長寿命化を目指す。</li> <li>・災害時の早期復旧を目指す上で根幹的施設とし、地域の防災拠点となる施設を目指す。</li> <li>・将来の機能向上や基幹改修に柔軟に対応できる施設とする。</li> </ul>	①長寿命化	20 点	110 点
			②災害に対する強靱化	50 点	
			③災害発生時の対応・処理継続性の確保	20 点	
			④将来を見据えた施設	20 点	
	施設の安全性や安定的な稼働に対する住民の信頼性維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故やトラブルを未然に防ぐ、安全性の高い施設を目指す。</li> <li>・処理が円滑かつ長期的に安定して行える施設とする。</li> <li>・情報の積極的開示など事業を通じて、信頼の確保・維持に努める。</li> </ul>	⑤全体配置動線	20 点	160 点
			⑥屋内配置動線	20 点	
			⑦施工計画	20 点	
			⑧トラブルの未然防止及び事後対策	20 点	
			⑨安定稼働	20 点	
			⑩搬入管理・運転管理	20 点	
	費用対効果に優れた整備運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DBO 事業による整備を行い、合理的な施設の整備・運営を行う。</li> </ul>	⑪情報発信	20 点	80 点
			⑫運営開始後の地域との関わり方	20 点	
			⑬工程の工夫	20 点	
			⑭組織体制・人員配置	20 点	
	エネルギー活用の最大化と環境保全対策の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロをめざす「ゼロカーボンシティ長崎」を宣言。</li> <li>・資源循環、エネルギー回収及び利用に優れ、省エネルギー化に努める。</li> <li>・自然環境・生活環境への負荷を低減し、周辺環境と調和した施設を目指す。</li> <li>・環境学習を始めとした、環境教育の起点となる施設を目指す。</li> </ul>	⑮経営計画・事業収支	20 点	210 点
			⑯リスク管理と対処方法	20 点	
⑰ゼロカーボンへ向けた取り組み			40 点		
⑱エネルギーの有効活用			40 点		
⑲周辺環境と調和した施設			50 点		
⑳残渣の発生量の低減			20 点		
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域貢献</li> </ul>	㉑公害防止対策	20 点	40 点	
		㉒見学者対応・環境学習	40 点		
			㉓市内業者又は認定市内業者の活用や雇用による地元経済への配慮	20 点	40 点
			㉔企業ノウハウを活かした地域貢献	20 点	
入札価格の定量化審査				400 点	
1) 入札価格				400 点	
合 計				1,000 点	

表 5 非価格要素に関する得点化方法

評価	審査基準	得点化方法
A	特に優れている	配点×1.00
B	AとCの中間程度	配点×0.75
C	優れている	配点×0.50
D	CとEの中間程度	配点×0.25
E	要求水準を満たす程度	配点×0.00

※1 各審査項目の得点は、各委員が個別に行った評価の平均値とした。

※2 各審査項目の得点は、小数第3位を四捨五入した値とした。

(ウ) 入札価格の定量化審査

入札価格の定量化審査においては、入札書に記載された入札価格が入札書比較価格を超えていないことを確認したのち、入札価格について、表 6 に示す得点算定式により得点化した。なお、入札価格に関する事項の配点は 400 点（全体 1,000 点）とした。

表 6 入札価格の得点算定式

入札価格の得点算定式
<p>○最低入札価格 &gt; 定量化限度額の場合</p> $\text{当該応募者の価格要素点} = 400 \text{ 点} \times \frac{\text{最低入札価格}}{\text{入札価格}}$
<p>○最低入札価格 ≤ 定量化限度額の場合</p> $\text{当該応募者の価格要素点} = 400 \text{ 点} \times \frac{\text{定量化限度額}}{\text{入札価格}}$ <p>※入札価格が定量化限度額以下の応募者の価格要素点は 400 点満点</p>

(エ) 総合評価値の算出

非価格要素の定量化審査、入札価格の定量化審査により算出した得点から、表 7 に示す算定式により、入札参加者の総合評価値を算出した。

表 7 総合評価値の算定式

総合評価値の算定式
$\left( \begin{array}{c} \text{当該応募者の} \\ \text{総合評価点} \\ \text{[1,000 点]} \end{array} \right) = \left( \begin{array}{c} \text{当該応募者の} \\ \text{非価格要素点} \\ \text{[600 点]} \end{array} \right) + \left( \begin{array}{c} \text{当該応募者の} \\ \text{価格要素点} \\ \text{[400 点]} \end{array} \right)$ <p>※ [ ] 内は各得点の配点を示す。</p>

### 3. 落札候補者の選定結果

#### (1) 参加資格確認

令和3年11月10日に入札公告を行い、令和3年12月9日～17日に参加資格審査申請書を受け付けたところ、以下の1グループから申請があった。

市は参加資格審査を行い、当該グループの入札参加資格を確認し、令和3年12月24日に代表企業に対して入札参加資格を有することを書面にて通知した。

表8 参加資格確認申請書類提出グループ

受付グループ名	ヒスイグループ
グループ名	三菱重工環境・化学エンジニアリング株式会社グループ
代表企業	三菱重工環境・化学エンジニアリング株式会社 九州支店
構成員	重環オペレーション株式会社
協力企業	株式会社フジタ九州支店 三菱重工交通・建設エンジニアリング株式会社西日本建設統括部 株式会社西菱環境開発 株式会社丸金佐藤造船鉄工所 協和機電工業株式会社 株式会社三浦工業所 株式会社ナガネツ

なお、審査会による審査にあたっては、審査の公平性を期すため、提案書等のすべての書類において参加グループの企業名は伏せ、表8の受付グループ名で識別して評価を行った。

#### (2) 提案書の基礎審査

令和4年3月25日に入札参加資格を有する1グループより提案書が提出された。

市は、基礎審査項目に沿って基礎審査を行った。

提案書は、いずれも基礎審査項目を満たしていることが確認されたため、審査会において、基礎審査に合格しているものと認められた。

#### (3) 非価格要素の定量化審査及び提案書に関するヒアリング

令和4年6月3日に、審査会において非価格要素の定量化審査を行った。審査に際しては、提案書に関する入札参加者による説明（プレゼンテーション）及び委員による提案内容に対する質疑（ヒアリング）を実施し審査を行った。

定量化審査の審査項目について、適確な提案がなされているかの審査を行い、非価格要素の定量化審査に関する得点化を行った。なお、評価は市の要求する水準を満たしたうえで、より優れた提案に対して評価を行う加点方式である。

審査結果は表9、非価格要素の各審査項目についての講評は表10のとおりである。

表 9 非価格要素の定量化審査結果（非価格要素点）

審査項目	No.	配点	ヒスイグループ	
長期安定稼働（基幹的施設整備を実施し、40年以上の稼働を目標）	-	110	77.08	
・40年以上の長寿命化を目指す	①長寿命化	1	20	15.83
・災害時の早期復旧を目指す上で根幹的施設とし、地域の防災拠点となる施設を目指す。	②災害に対する強靱化	2	50	35.42
	③災害発生時の対応・処理継続性の確保	3	20	13.33
・将来の機能向上や基幹改修に柔軟に対応できる施設とする	④将来を見据えた施設	4	20	12.50
施設の安全性や安定的な稼働に対する住民の信頼性維持	-	160	110.82	
・事故やトラブルを未然に防ぐ、安全性の高い施設を目指す。	⑤全体配置動線	5	20	15.00
	⑥屋内配置動線	6	20	15.00
	⑦施工計画	7	20	13.33
	⑧トラブルの未然防止及び事後対策	8	20	12.50
・処理が円滑かつ長期的に安定して行える施設とする。	⑨安定稼働	9	20	15.83
	⑩搬入管理・運転管理	10	20	13.33
・情報の積極的開示など事業を通じて、信頼の確保・維持に努める。	⑪情報発信	11	20	12.50
	⑫運営開始後の地域との関わり方	12	20	13.33
費用対効果に優れた整備運営	-	80	58.33	
・DBO事業による整備を行い、合理的な施設の整備・運営を行う。	⑬工程の工夫	13	20	12.50
	⑭組織体制・人員配置	14	20	13.33
	⑮経営計画・事業収支	15	20	16.67
	⑯リスク管理と対処方法	16	20	15.83
エネルギー活用の最大化と環境保全対策の徹底	-	210	149.16	
・2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ長崎」を宣言。	⑰ゼロカーボンへ向けた取り組み	17	40	30.00
・資源循環、エネルギー回収及び利用に優れ、省エネルギー化に努める。	⑱エネルギーの有効活用	18	40	28.33
・自然環境・生活環境への負荷を低減し、周辺環境と調和した施設を目指す。	⑲周辺環境と調和した施設	19	50	37.50
	⑳残渣の発生量の低減	20	20	13.33
	㉑公害防止対策	21	20	13.33
・環境学習を始めとした、環境教育の起点となる施設を目指す。	㉒見学者対応・環境学習	22	40	26.67
その他	-	40	25.00	
・地域貢献	㉓市内事業者又は認定しない事業者の活用や雇用による地域経済への配慮	23	20	11.67
	㉔企業ノウハウを活かした地域貢献	24	20	13.33
合計		600	420.39	

表 10 非価格要素に関する事項の講評

審査項目	審査講評	
長期安定稼働（基幹的施設整備を実施し、40年以上の稼働を目標）		
<ul style="list-style-type: none"> <li>40年以上の施設の長寿命化を目指す。</li> </ul>	①長寿命化	<ul style="list-style-type: none"> <li>長期にわたる補修実績に基づく設計施工段階の対策、適切な維持管理計画の策定、IoT技術を活用した予防保全などの提案がなされている点を評価した。</li> <li>運営期間終了の適切な時期に、本施設の継続使用のための円滑な引継ぎへの配慮がなされている点を評価した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時の早期復旧を目指す上で根幹的施設とし、地域の防災拠点となる施設を目指す。</li> </ul>	②災害に対する強靱化	<ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災での被災の経験を活かした提案、本施設の立地特性を踏まえた提案を評価した。</li> </ul>
	③災害発生時の対応・処理継続性の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時の役割分担の明確化、オフサイトからの支援体制の確保などの提案がなされている点を評価した。</li> <li>避難所等への電気・熱の安定供給に配慮した設備計画がなされている点を評価した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>将来の機能向上や基幹改修に柔軟に対応できる施設とする。</li> </ul>	④将来を見据えた施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来的な技術革新や設備更新等を見据えた提案となっている点を評価した。</li> </ul>
施設の安全性や安定的な稼働に対する住民の信頼性維持		
<ul style="list-style-type: none"> <li>事故やトラブルを未然に防ぐ、安全性の高い施設を目指す。</li> </ul>	⑤全体配置動線	<ul style="list-style-type: none"> <li>見学者と車両の動線分離等、安全確保に配慮した提案となっている点を評価した。</li> </ul>
	⑥屋内配置動線	<ul style="list-style-type: none"> <li>破砕機に同時4台受け入れが可能であるなど施設の特性を踏まえた適切な配置が提案されている点を評価した。</li> </ul>
	⑦施工計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>プラント利用のための迂回を早期に設置することで、工事関係車両との動線を分離するなど、より安全性に配慮した計画となっている点を評価した。</li> </ul>
	⑧トラブルの未然防止及び事後対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>IoT技術の活用により、トラブルの未然防止及び事後対策について実効性の高い提案である点、代表企業による遠隔監視サポート、地元協力企業による助勢が計画されている点を評価した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>処理が円滑かつ長期的に安定して行える施設とする。</li> </ul>	⑨安定稼働	<ul style="list-style-type: none"> <li>AI技術の活用やこれまでの実績を踏まえた実効性及び妥当性のある提案となっている点を評価した。</li> </ul>
	⑩搬入管理・運転管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>各ポイントにおける監視等が勘案された適切な搬入管理の提案がなされている点を評価した。</li> <li>計測頻度や計測管理項目の上乗せを行い、ホームページで情報公開を行うなど、安心できる運転管理を行っている点を評価した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の積極的開示など事業を通じて、信頼の確保・維持に努める。</li> </ul>	⑪情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNS等による情報発信、双方向コミュニケーションを取り入れるなど、住民との信頼関係を構築する取り組みを行う提案となっている点を評価した。</li> </ul>
	⑫運営開始後の地域との関わり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民との関係構築を図る具体的な提案となっている点を評価した。</li> </ul>

費用対効果に優れた整備運営		
<ul style="list-style-type: none"> <li>DBO 事業による整備を行い、合理的な施設の整備・運営を行う。</li> </ul>	⑬工程の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>円滑な工事のための工夫と妥当な工程計画となっている点を評価した。</li> </ul>
	⑭組織体制・人員配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>役割分担の明確化、人員の適正配置等について妥当な組織体制の提案がなされている点を評価した。</li> </ul>
	⑮経営計画・事業収支	<ul style="list-style-type: none"> <li>安定した事業運営のための事業経営計画の提案がなされている点、資本金の設定根拠が明確な点を評価した。</li> </ul>
	⑯リスク管理と対処方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前のリスクアセスメントを踏まえた検討や、事業期間中のセルフモニタリングなど具体性と妥当性のある提案となっている点を評価した。</li> </ul>
エネルギー活用の最大化と環境保全対策の徹底		
<ul style="list-style-type: none"> <li>2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロをめざす「ゼロカーボンシティ長崎」を宣言。</li> </ul>	⑰ゼロカーボンに向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO<sub>2</sub>排出量抑制に結び付く提案に加え、独自のCO<sub>2</sub>回収技術の活用等の将来的な利用を見据えた提案がなされている点を評価した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>資源循環、エネルギー回収及び利用に優れ、省エネルギー化に努める。</li> </ul>	⑱エネルギーの有効活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>高いエネルギー回収率及び発電効率を見込む提案となっている点を評価した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>自然環境・生活環境への負荷を低減し、周辺環境と調和した施設を目指す。</li> </ul>	⑲周辺環境と調和した施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>圧迫感の低減及び周辺環境との調和に配慮したデザインとなっている点を評価した。</li> <li>7色のライトアップについては慎重に検討していただきたい。</li> </ul>
	⑳残渣の発生量の低減	<ul style="list-style-type: none"> <li>焼却残渣低減のための具体性のある提案となっている点を評価した。</li> </ul>
	㉑公害防止対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>実績に基づく要監視基準値の設定等について具体性のある提案となっている点を評価した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>環境学習を始めとした、環境教育の起点となる施設を目指す。</li> </ul>	㉒見学者対応・環境学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ゼロカーボン」をテーマとするなど、市の目指す方向性をよく理解した提案となっている点を評価した。</li> </ul>
その他		
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域貢献</li> </ul>	㉓地元企業の活用や雇用による地元経済への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元企業への発注や地元雇用に配慮された提案となっている点を評価した。</li> </ul>
	㉔企業ノウハウを活かした地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な取り組みを行い、SDGsの達成に向けて一体的に推進していく考え方を評価した。</li> </ul>



## 入札価格の定量化審査

提案書を提出した入札参加者の立会いのもとで令和4年6月3日に開札を行い、入札参加者の入札価格が予定価格の範囲内であることを確認した。

審査会は、開札結果の報告を受け、入札価格の定量化審査に関する得点化を行った。得点化の結果は、表11のとおりである。

表11 入札価格の定量化審査結果（価格要素点）

受付グループ名	配点	入札価格（税抜）	価格要素点
ヒスイグループ	400	27,590,000,000 円	400.00 点

※定量化限度額：22,073,600,000 円（入札書比較価格の80%）

## （4）総合評価値の算出

「非価格要素点」、「価格要素点」を加算して、表12のとおり総合評価値を算出した。

表12 総合評価値の算出結果

受付グループ名	非価格要素点 (A)	価格要素点 (B)			総合評価値 (A)+(B)
			入札価格（税抜）	対入札書比較価格	
ヒスイグループ	420.39 点	400.00 点	27,590,000,000 円	99.99%	820.39 点

## （5）落札候補者の選定

審査会は、上記の結果に基づき落札候補者を次のとおり選定した。

表13 落札候補者

落札候補者	○
総合評価値	820.39 点
受付グループ名	ヒスイグループ
グループ名	三菱重工環境・化学エンジニアリング株式会社グループ
代表企業名	三菱重工環境・化学エンジニアリング株式会社 九州支店

## 4. 総評

新東工場（エネルギー回収型廃棄物処理施設）は、現東工場が適正な処理処分を長期にわたり安定的に行い、現在まで市が無事故運転を続けることにより築いてきた住民との信頼関係を維持できる施設として、新たに整備するものである。

本事業では、本施設の設計・施工及び運営・維持管理を一括して発注する DBO（Design-Build-Operate）方式を採用しており、民間の創意工夫による提案を取り入れた良質な設計・施工業務と、効率的かつ効果的な運營業務を実施するものである。さらに、長期に及ぶ運営期間（20年間）にわたって、安全で安定したごみの適正処理を行うとともに、循環型社会を構築するためのエネルギー回収を進めることを目的としている。このような背景を踏まえ、総合評価一般競争入札により市が落札者を選定するにあたり、審査会では、透明性、公平性に最大限配慮した評価基準及び方法を定め、落札候補者選定のための審査を実施した。

今回、1グループからの提案ではあったが、本事業の抱える特性を的確に捉えたうえで、本事業の有する課題に対応するための創意工夫がなされ、また、過去の経験に基づいた提案であり、厳正なる審査を行った結果、三菱重工環境・化学エンジニアリング株式会社を代表企業とするヒスイグループを落札候補者として選定するに至った。

ヒスイグループの提案については、「長寿命化」、「安定稼働」「経営計画・事業収支」、「リスク管理と対処方法」について高く評価した。一方で、審査会の審議において、以下に示す要望事項が挙げられた。

- ① 運営期間が長期間に及ぶため、信頼性の高い処理システムを構築し、一般廃棄物の特性でもあるごみ量、ごみ質の変動や処理不適物等の混入に対し、柔軟な対応に努めること。
- ② 「施設の安全性や安定的な稼働に対する住民の信頼性維持」をコンセプトの一つに掲げており、その実現に向けて、更なる環境負荷の低減と事故防止などの安全の確保に努めること。
- ③ 大規模災害発生時であっても施設の長期停止とならず、継続してごみ処理を行うことができる強靱な施設であること、また、地域のエネルギーセンターとしての役割を果たすこと。
- ④ 脱炭素社会実現に向けた長崎市の取り組みなど、環境に関する情報発信を積極的に行い、市の環境教育の拠点となる施設とすること。
- ⑤ ごみ搬入車両、災害廃棄物仮置場利用者及び一般来場者動線等、敷地内に複数の動線が輻輳することから、各施設利用者の安全に最大限留意した計画とすること。
- ⑥ 新東工場の整備は既存施設を稼働しながらの建設工事となるため、工事施工中の工事車両、既存施設へのごみ搬入車両及び一般来場者に対する安全を第一に実施するとともに、周辺には住宅地が多いことから、通勤・通学時間帯の周辺道路の交通量、交通規制等を十分考慮し、地域住民に対する交通安全対策を確実に実施すること。

ヒスイグループには、上記の要望事項等について、本事業をより良いものとするために市と十分な協議を行い、真摯な対応に努めてもらいたい。さらに、ヒスイグループには、事業期間を通じて誠意をもって各業務を行い、市と良きパートナーとなり、地域との信頼関係を築きながら、本事業を円滑に推進することを期待する。

令和4年7月

長崎市新東工場整備運営事業受注者選定審査会  
審査会長 西久保 裕彦